

Ohmi Net

No. 41
5・6月号

おらみネット



BIWA CHAN



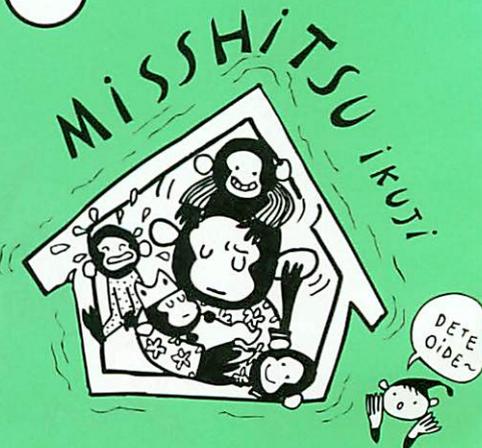
Q1.安心して子育てするのに、今、一番必要なことは？

県民191人巻頭アンケート結果

- 犯罪が起こらない地域を目指すことが大前提だと思います。犯罪が犯罪を次々と起こすように、笑顔が笑顔、親切が親切を充滿させてくれるはず。そうすれば、安全になって今の「当たり前」も変わってくると思います。
- 核家族が増えていて、マンションなど近所づきあいの少なくなった今の世の中です。もともと地域や近所の関わりを持つこと、子育てで悩む人の相談にのってくれる行政の施設などが必要だと思います。
- 家庭内及び地域でのオープンなコミュニケーションで、子育ての情報を得たり、悩みを打ち明けられたりする環境づくりが大切だと思います。また、困ったときに助けてもらえる制度づくりも必要だと思います（託児サービスなど）
- 子どもに愛情を持って接することのできる家庭環境を心がけること。地域や近所とのつながりを深める。
- 安全な社会環境
- 経済（収入）の安定と給料増加。治安の安定
- 子育てに不安を感じたり、行き詰まったときに相談する人がいることが必要。
- 核家族の人や新たに引っ越してきた人たちの密室育児の解放。→密室虐待に繋がらない。
- 父親の子育て参加。あるいは妻の家事の手助け。
- 子どもの姿を見て、心を癒し明日の仕事の力になる人がいると思う。
- 欲を言えば、夜型から朝型への生活リズムの変更。特に、サービス残業で疲れてかえってきた父親に、お勧め。眠っている子どもを、わざわざ起こして子どもの相手をするよりも、少し早く起きてぐずっている、朝の朝食での家族団らんをする方がいい。子どもを見て、イライラする親であれば虐待をする動機に繋がることがある。
- 家族の連携と協力。近所同士の助け合い。子育て機関や教育機関、民生委員、児相、警察などとの連携強化。
- 子育てが「孤育て」にならないよう地域やNPO、行政、教育機関などが子どもと親をサポートする意識改革が必要。また警察との連携も必要だと思う。
- 家庭環境というのは子どもにとってすごく影響があると思う。この不景気で共働きが増えているが、子どもとのコミュニケーションはとるべきだと思う。子どもは親をみて育つので、子どものことを考えた上で行動をおこすべきだ。
- 子育てするには「会話」が必要。家族、祖父母、近所の人あるいは専門家。特に身近なおばさんは頼られることに喜びを覚えます。ぜひ話を、まずあいさつから始めてください。
- 子育てを母親だけに押し付けるのではなく、家族みんなで、ときには社会全体でサポートできれば。昔ながらのとなり近所の助け合い、井戸端会議、大きなお兄ちゃんか小さな子の面倒を見る縦のつながりを取り戻すために自治会や子ども会の役割を見直し、地域の子育てを考えるネットワークを積極的につくる。

安心して子育てするのに今一番必要なことは？

県民191人巻頭アンケートVOL7



◀◀◀ 中面につづく

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

第二回 背負った児に教えられ

木村光一(事務局スタッフ)

このところ、子どもの虐待報道が大きく取り上げられている。TVでは公共広告機構が、幼い子を抱きしめることの大切さをアピールしている。児童虐待問題に取り組んでおられる方に、虐待は増加傾向にあるとの答えを予想して聞いてみたが、答えは違っていた。昔の社会は体罰に対して寛容であって、虐待ととらえることが少なく、誰も件数を把握できないでいる。取り組みへの理解が広がるとともに通報件数は増えているが、虐待が増えているとは言えないという。

私自身、岸和田の事件で唖然としたが、児童虐待の事件を丹念に拾った資料を読むと、過去に悲惨な事件がいくつも報道されていた。当事者も周囲も感じないまま、隠れている虐待事象は多いだろう。事例を追うと、子どもを叱る激しさが増してくると言葉は荒くなり、手を挙げる様になる。一度手を挙げると、次は歯止めがなくなったり、言うことを聞かないということで片方の親がもう一方の親や周囲が責めたり、あおったりすると、虐待はさらにエスカレートしていく。

児童の虐待死を防ぐためには、行政や警察等の介入を強めるべきだという意見がある。だが、子どもと親を分離することでは解決しないし、医療機関などから発見通報されるのは表面化した一部である。親権の制限や剥奪をすることで、子どもの心への影響も考慮しなければならない。だから、ケースごとに関係者が連携しながら、長い時間を掛けて問題を解きほぐしていくのである。

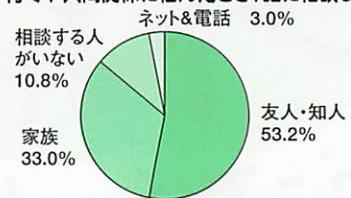
また、児童虐待を「最近の若い親は、豊かになりすぎて…」 「自由とか権利を言い過ぎて…」などの一種の社会批判につなげた考えもある。しかし、丹念に拾えば、家族間の暴力や虐待が傷害や殺人につながった事件は、あらゆる世代間で起こっている。さまざまな年代で、家族が憎しみを募らせたり悩んだりして、加害者と被害者になっていくのである。そこには、力の強い者が弱い者を抑圧していく関係があって、子どもの虐待死事件と同じ根っこを抱えていることに気づかないと、自分にも起こることとはとらえにくい。それだけ深刻なことだと理解して、誰もが向き合っていかなければならない今の社会課題なのである。



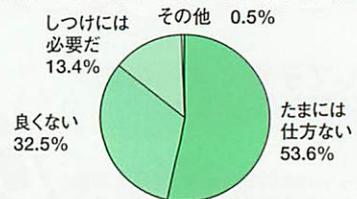
安心して子育てするのに今、一番必要なことは？
県民191人巻頭アンケート結果

▶▶▶表紙よりつづき

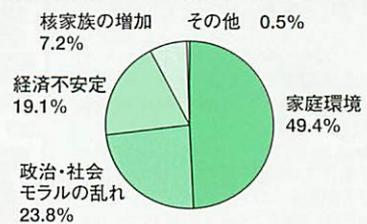
Q2.子育てや人間関係に悩んだとき、誰に相談しますか？



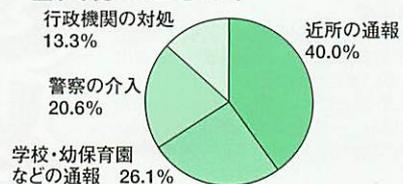
Q3.親が子どもに手をあげることをどう思いますか？



Q4.最近の親のモラル低下の一番の原因は？



Q5.子どもを虐待から守るのに一番大切なことは？



アンケート：携帯情報メール発信会社「j2メール」協力
県民：191人(回答数) 男性：72名 女性：101名 性別不明：18名
20代：38名 30代：75名 40代：43名 50代以上：15名 不明：20名

[7月号のアンケート]

次回7月は環境保全をテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくは「センターインフォメーション」をご覧ください。

CONTENTS

巻頭コラム●アンケートから考える

背負うた児に教えられ…… ①

特集・Oh!Me!Eyes… ②

KIRARI★INTERVIEW… ⑤

私たち「きらり」輝いています!NPO

- NPO法人環境を考える会(環境)
- 志賀町子ども週末活動支援ネットワーク「ルンルン」(教育)
- 障害児放課後クラブ 元気玉クラブ(福祉)

がんばれ!NPO 応援団… ⑦

【めととと★コラボ】

【おうみネット講座・心の通う情報誌づくり】

【ONLY ONE リレーエッセイ】

【スローグッズ探検隊】

行って来て見て情報BOX

5月・6月……… ⑨

行政対応の隙間を埋め、小回りのきく活動で

児童虐待を防止する市民団体の取り組み

児童虐待に関する痛ましい事件がたびたび新聞などで取り上げられています。大人として親として、深く関心ある社会問題ではありますが、非常に難しい取り組みであるのも事実です。市民活動としてどう取り組んでいけばいいのか。今回の「おうみネット」では、弁護士会はじめ関係機関と連携しながら、この問題に早くから取り組んでいる「子どもの虐待防止ネットワーク・あいち（CAPNA）」の活動を紹介し、市民活動としての取り組みを考えます。

●子どもの虐待防止ネットワーク・あいち（CAPNA）を設立するきっかけを教えてください。

さい。

兼田 子どもの虐待は昔からあったのですが、一九九〇年代頃に社会問題として表面化します。大阪に最初のセンターが設立され、次いで東京でできました。CAPNAを設立された祖父江さん（元理事長）は児童養護施設の施設長で、その頃に弁護士の岩城さん（現理事長）と出会うある事件が起きました。弁護士会には子どもの権利委員会があり、そのメンバーと一緒に、東京や大阪の方々を招いて学習会を始めたのですが、東京の虐待防止センターの広岡さんから「電話一本引いて相談始めたら、いろんな人が集まってくる。まずそれから始めてはどうか」と助言をもらって、電話相談を始めたのが九五年でした。おどろくことに、相談を受けた

六十一件の電話のうち四十七件が虐待に関係していたのです。九五年十月には、CAPNAとして正式に発足することになりました。

●児童虐待が新聞等でも取り上げられ、関心が高まっています。過去にも虐待はあったと思われませんが、以前の虐待と今の虐待に特徴的な差はあるのでしょうか？

兼田 昔と比べて虐待が増えたかどうかは、昔の統計がないのでわかりません。昔は、今でいえば虐待にあたるものが「しつけ」の名のもとに行われ、周りもそれが当たり前、という感じだったし、体罰もひどかった。また、子どもの面倒を見ない、いわゆるネグレクトも、今より貧困だったので事象としては多くあったでしょう。ですから、子どもを取り巻く環境としては、今より良かったということはないと思います。

児童虐待が表面に出てきているのは、一つは周りが関心を寄せるようになったということと、子どもの権利条約の批准などにより、子どもの人権に関して少しずつ社会認知されてきたからだと思います。

山田 よく虐待する親は「鬼のような」と報道されるが、実際は普通の親が子育てに悩んで虐待に走る、というケースなのです。虐待した親に厳罰をという声も

あります。が、いくら親を罰しても社会的なサポート体制を整



●調査研究活動の一環として出されたCAPNA発行の出版物



●専務理事の兼田智彦さん

↑次ページへつづく

殴ってもいいという文化が、
子どもを殴っている文化に受け継がれていく。
このような世代間連鎖を断ち切る必要性があるのです。
まず、社会の認識を変えていくことが重要です。

●常務理事の
山田裕子さん



えない限り虐待は減りません。

●CAPNAの取り組みの概要を教えてください。

兼田 CAPNAの活動は電話相談、危機介入、調査研究、社会啓発、予防・援助の五本柱で活動しています。電話相談は、設立時から取り組んでいます。ネットワークを広く形成するという趣旨から、電話スタッフ養成講座では、受講生を広く募り、現在百名以上が相談スタッフとして活動に参加しています。

危機介入は全国的にもあまり例がありませんが、弁護士グループが八十人以上いるのはCAPNAの特徴です。「キャプナ弁護団」として別グループを形成して、CAPNAと連携しつつ独自の活動をしています。キャプナ弁護団では虐待された子の弁護だけでなく、虐待した親の弁護もしています。この点がなかなか理解してもらえないのですが、虐待は親だけの問題ではなくて、社会的なサポートを増やしていくこ



●隔月発行の広報誌「キャプナ・ニュースレター」と会のリーフレット

とが必要だと考えています。だから、虐待した親の裁判の中で、社会的なサポートが必要なことを明らかに訴えていくため、親の弁護も引き受けています。

このほかに、虐待の問題を社会に訴えていくために、これまで不幸にしてこの世を去った子どもたちの事例を調査し出版しています。また、講演会やセミナーなどを開催して、広く社会に理解を得られるよう取り組んでいます。

●では、弁護士が入ることで、救済にどのような効果がありますか。また、親への関わりはどうされていますか。

山田 電話相談やホットラインに虐待の連絡があると、弁護団と児童相談所へ連絡します。弁護団で対応を検討し、関係機関と連携をとりながら取り組んでいきます。事例が緊急を要する場合には、弁護団が独自に動くこともあります。が、危機介入は関係機関との連携が大切であり、権限を有する児童相談所とともに行動をしています。特に親権に関する場合は、やはり法律の専門家である弁護士が必要です。また、虐待している親も弁護士に「法的に、こうですよ」と言われると納得されることが多いです。基本的に、弁護団はいつも子どもの視線にたって行

動しますし、CAPNAには医療関係者や学校関係など様々な人々が連携しながら活動に関わっています。

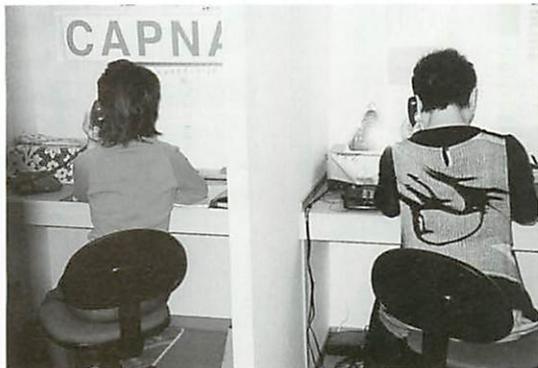
虐待された子どものケアも大切ですが、再発防止、また虐待を未然に防ぐためには親のケアも大切と考えています。そのため設立当初から、悩みを持つ母親たちの自助グループを支援しています。ここに来る方たちは、子どもをたたいてしまうなど、すでに虐待している人や自らの生育歴の中で虐待を受け、今も苦しんでいる人などです。たいていしてしまうことに罪悪感を抱いているので、当事者同士が語り合うことで、自分だけではない、他にもいる、そしてそれを乗り越えるためにここに来ているんだと感じ、たたくたくなったとき、他の人は違う方法を選んだということから、接し方の意識を変えたり、形を変えることに気づいていく場となっています。

●行政と連携するまでに、いろいろと障害もあったと思うのですが。

兼田 設立当時は行政との対立関係がありました。が、二〇〇〇年に虐待防止の全国大会を開くにあたって、実行委員へ行政も入ってもらったことで変わってきました。一緒に仕事をすれば、

児童虐待とは・・・保護者が子どもに対して行う次のような行為をいいます。

1. 児童の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加えること（身体的虐待）
2. 児童にわいせつな行為をすること又は児童をしてわいせつな行為をさせること（性的虐待）
3. 児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置その他の保護者としての監護を著しく怠ること（ネグレクト）
4. 児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと（心理的虐待）



●電話相談の様子

「CAPNAホットライン」

月～土 10:00～16:00

052-232-0624

虐待されている子どもを見かけたら・・・？

児童福祉法、児童虐待防止法では、虐待されている子どもを発見した人は、児童相談所または福祉事務所に通告しなければならないとしています。

■児童虐待に関する相談窓口

◆中央子ども家庭相談センター

電話 077-562-1121

◆彦根子ども家庭相談センター

電話 0749-24-3741

◆滋賀県青少年・子ども電話総合相談室
(こころんだいやる)

電話 077-516-2255

電話 077-516-2233 (子ども専用)

※このほか、各地域振興局および大津健康福祉センターの「滋賀県子ども家庭相談室」でも相談を受け付けています。

■県内の支援団体

子どもの虐待防止ネットワークしが
(CAPNeS)

児童虐待防止に関する啓発事業、電話相談、子ども家庭相談センターの一時保護所等へのボランティア派遣事業、ボランティア養成講座などを実施。

URL : <http://homepage3.nifty.com/capnes/capnes/index.htm>

お互いに信頼関係もできるし、こちらの力も理解してもらえる。その後の関係は良いものになりました。CAPNAは市民活動団体として、また、虐待専門の市民団体なので、行政対応の隙間を埋め、小回りのきく活動ができます。

山田 名古屋市は、十六の区すべてに「子どもサポート連絡会議」を設け、弁護士会、医師会、CAPNAを虐待専門委員として位置づけています。ここには、CAPNAから電話相談員を一名ずつ派遣しています。会議では、地域ごとに地域で身近におきた事例などについて話し合います。それを行うことで意識の共有化、対応についての協力体制などを築いています。また、CAPNAは愛知県、名古屋市と協定書を結んで、お互いに情報交換ができるようにしています。しかし協定書などを結んでもまだまだ壁は厚いと感じることがあります。

●では、虐待をなくすにはどうしたらよいでしょう。

山田 親も子どもの頃に愛情を注がれていないと、自分の子どもにどう愛情を注いでいいかわからない、ということがあるのです。まして社会や地域とのつながりが薄れている中で、子どもにどう接すればよいかわからず、多くの人が悩み、不幸な結果を導く事例も生まれます。だから社会的なサポートが必要と考えています。生まれた子どもが、最初に「こんにちは」って出会うのは親なのだから、人間の温かさや愛情を子どもに伝えて、「人って温かいものなんだ」とか、「やさしく関わってくれるものなんだ」という信頼関係を築くことが大切です。ぜひ、人って温かいものと伝えてほしい。

兼田・山田 虐待をしている親自身が子どもの頃虐待を受けていた例が多いのです。殴っていいという文化が、子どもを殴っている文化に

受け継がれていく。いま暴力を受けている子どもが親になったとき、やはり同じように暴力をふるうでしょう。このような世代間連鎖を断ち切る必要性があるのです。今日、明日に解決できるようなものでなく、二世帯、三世帯目ぐらいにやっとなくなっていくのかという、長いスタンスで取り組む必要があります。また、気がついていない人に対しては、周りが気づいて知らせる必要があるが、みんなが「たたくのはおかしいよ、体罰はおかしいよ」と気づいていないと、なかなか難しい。まず、社会の認識を変えていくことが重要です。

特定非営利活動法人子どもの虐待防止ネットワーク・あいち (CAPNA)

設立1995年 (2000年法人認証)

事務局：愛知県名古屋市中区丸の内1-4-4-404

ホームページ：<http://www2.ocn.ne.jp/~capna/>

メールアドレス：capna@cronos.ocn.ne.jp

NPO きらり 輝いています！

●野洲川の河原の植生調査



地域でボランティア活動を広めようと奮闘しているあなた、新たにNPO活動を立ち上げて琵琶湖のまわりを走りまわっている君、「淡海」というフィールドで、静かだけど、どこか「きらり」と輝いているボランティア活動や市民活動で活躍されているNPOの皆さんをご紹介します。

地元野洲を五感で体験して、環境問題へ気づいてもらいたい

野洲町を拠点に活動する「NPO法人環境を考える会」。法人立ち上げは一昨年ですが、任意団体としては二〇〇〇年から活動しています。現在、野洲町の委託事業を受け、年間を通じて、地元で環境講座や出前講座、公開講座を行っています。その内容は、環境映画の上映、紙すき体験、野洲川探検、七草粥の試食会など、どれも、わいわい楽しく気軽に参加できるものです。これらの事業には、実は、

あるのだそうです。難しいデータや理論だけが環境問題ではなく、もっと多くの人に考えてもらおう、というのです。

野洲をフィールドとして、見て、聞いて、食べて、参加者自身に環境問題を自分のこととして気づいてもらおう、というねらいが

代表の菅谷さんは長く環境問題を考えてきた方。会員は多種多様な興味と得意分野を持つている方が集まっています。このパワーを活用して、昨年は野洲町からの委託事業として「三上山・妙光寺山・田中山フィールドガイド」を編集しました。野鳥、昆虫、植物、

ワークを計画中。今後の課題としては、地元の方がより多く参加してくれる活動にすることだそうです。「私たちは、フィールドを大切に、環境の課題について子ども達とおとなが一緒になって、ともに学習や体験を通しての活動を中心に行っています」と代表の菅谷さん。取材当日は、事務局の安藤さん、広報担当の熱田さんも会の活動について楽しそうにお話をしてくださいました。ふと



●野洲町発行「三上山・妙光寺山・田中山フィールドガイド」を編集

環境 NPO法人環境を考える会

野洲をフィールドとして、見て、聞いて、食べて、参加者自身に環境問題を自分のこととして気づいてもらおう、というねらいが



●(左から) スタッフの安藤さん、熱田さん、菅谷代表。



●“春を食べよう”の料理準備中。

地質がわかりやすく豊富な写真と解説が掲載されている力作です。今年はこの力を活かしてフィールド

何とみると3名全員が滋賀へは転入されたのだそう。滋賀の人・環境が本当にお好きだから、このような活動を楽しみながら続けておられるのでしょう。実は私も転入組。野洲(あるいは滋賀)で暮らす人のネットワークを今後も広げてゆかれることを期待しています。

(編集ボランティア 幡 郁枝)

NPO法人環境を考える会

代表●菅谷多美子
設立●2002年(法人認証)
会員●25名
連絡先●野洲郡野洲町雷波乙780-54
TEL: 077-586-1015

まちづくりのキーワードは『子ども』
地域の顔見知りを増やしたい

志賀町で二〇〇〇年一〇月から子ども週末活動支援を始めた「ルンルン」。学校完全週五日制を前に「自分たちでやらへんか？」



●化石探し
子どもと遊ぼう」と集まった十名がスタンプと became 生まれました。

活動は毎月一回、各小学校区ごとに企画。体育館での自由な遊びの日と、テーマを決めて体験する日を設け、チラシで全児童に呼びかけています。「春の山菜狩り」や「化石探し」は特に人気が高く、「志賀町の水調べ」は滋賀大学と連携して三年間続いているとか。今年も綿を植えて育て、機械から作品づくりまでを計画中で、植え付ける農園も無料で依頼済み。安全面に配慮しながら、子どもの自主性に任せた運営をしています。

「腕白でちょっと心配だった子どもが、皆を仕切って楽しく遊ばせてくれたんです。子どもたちの嬉しい一面に出会えるのが励みです」と事務局長の永野麻也子さん。「まちづくりには『子ども』がキーワード。地域の顔見知りを増やしたい」と言います。十六名に増えたスタンプですが、「声をかければ協力してくださいる方はもっといっぱい」とにっこり。確実にネットワークは広がっているようです。今後は中学生もスタッフとして関わってもらいたい、学校での学習を「ルンルン」がつかないで親子一緒に体験できる企画もしたいと話しながら、遊びのネタやヒントが話題に上がるとすぐさまメモ帳に書き込んでいました。

（編集ボランティア 井上多佳子）



●茶道体験

志賀町子ども週末活動支援ネットワーク「ルンルン」

代表●上田藤市郎
設立●2001年10月
会員●16名
連絡先●滋賀郡志賀町北小松字大田1589
TEL：077-596-2510（永野）



●事務局長の永野麻也子さん

障害を持つ子どもたちが地域で、豊かな放課後を過ごして欲しいですね

「親は介護はできるけど、友達にはなれないから」。障害児を持つお母さんのことばが「元気玉」誕生のきっかけでした。児童二人と指導員の家永理津子さん、そして高校生のボランティア一人の四人でスタート。「障害児の学童はどこにもなかったから、まさしく手探り。十年間続けてこられたのは、保護者の熱意と、福祉を学ぶ大学生や指導者として参加してくれた人たちのおかげ」と家永さん。対象は小学生から高校生まで。当初は週に

二回の活動で、天気村（現NPO法人子どもネットワークセンター天気村）の幼児教室に参加したり、図書館や児童館を利用しました。やがて参加児童数が増え、支えるボランティアや指導員も増えて、活動の日数や内容も多様になりました。今では月々土曜日まで毎日オープン。参加児童は二十一人まで増えました。家庭と養護学校しか知らない子どもたちが、公共の乗り物や施設を利用したり地域のイベントに参加したり、地元の子どもたちと

ふれ合う機会もあります。「障害を持つ子どもたちをよく見えますよ」と家永さん。「団体行動はとれないけれど、個性豊かな子どもたちに教えられ

ることは多いですね。今、一番の願いは拠点となる「元気玉ハウス」を持つこと。この十年、市や県への働きかけをしながら可能な範囲の協力や補助を受けられるようになりました。でも、障害児の学童保育自体がまだまだ珍しい存在です。「子どもたちの障害も様々なので、ほぼマンツーマンで指導員がきます。人件費を含め保護者の負担が大きいのも事実。でも、長く続けたいとみんなが願っています。そのためにもベースとなる場所が必要ですね」と家永さん。子どもの数が減っているというのに、「元気玉」に参加する仲間は増える一方です。お金も、場所も、何にもないところから出発した「元気玉」。まさしく、元気な人の力で続けて来られたのですね。

障害児放課後クラブ 元気玉クラブ

代表●家永理津子
設立●1994年12月
連絡先●077-563-3416（家永宅）
URL：http://www.cable-net.ne.jp/user/ik115515/top.htm



●代表の家永理津子さん



●東レスポーツ大会に参加



●草津第二小学校児童会交流イベントに参加

コミュニティー誌



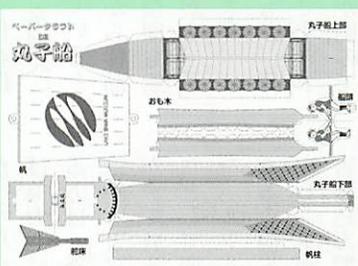
〔図B〕

街の話題●イベント・プレイガイド情報●地域で活動する人紹介●市民活動・サークル情報●企業情報があります。〔図B参照〕

市民活動の新聞はミニコミ誌という極最小の単位の新聞ですが、コミュニティー誌であるということをおいて情報発信をして欲しいのです。つまり、市民活動は趣味ではなく、社会活動であり、その活動を多くの人にその情報を広めるという義務があるということです。「同じサークル仲間や市民活動グループだけに読ませる新聞内容に留まっていますか？」皆さんの活動に全く興味のない人を巻き込むぐらいの広報誌。そのぐらいの使命をもって情報を発信してください。

※次号は「情報を伝える方法は？」についてです。

で活動でき、その活動の成果は博物館自体の活動に活かされます。募集は年3回（3月、7月、11月）で登録講座を開催し、月1回ニュースレターを発行しています。昨年度は



▲丸子船探検隊
「ペーパークラフトDE丸子船」

子どもから高齢者まで約200名の登録があり、「うおの会」「里山の会」「たんざいぼうの会」「ほねほねくらぶ」など11グループが活動。中でも、「湖をつなぐ会」では子どもたちを中心に、水フォーラムで歌われた「生きている琵琶湖」を県内各地で次世代に歌い継いでいます。発足4年、グループの活動エリアは博物館と地域のネットワークづくりへと広がりつつあります。また、1997年に創設された「フィールドレポーター制度」では、自然や暮らしについて身の回り調査を行う「地域学芸員」の情報提供が博物館の展示に活用されています。人と博物館の協働の取り組みが、地域全体のまちづくりの一翼を担うよう期待されるところです。

【問】 県立琵琶湖博物館
TEL：077-568-4811 FAX：077-568-4850
<http://www.lbm.go.jp/>

ONLY ONE

リレーエッセイ

「精一杯の舞台を」

人形劇場
「かにこぞう」
大崎省子さん



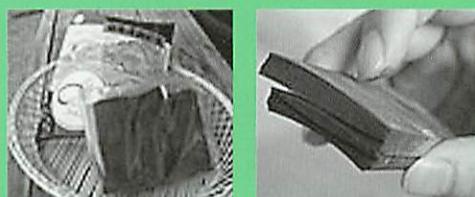
「かにこぞう」ということで度々のお声掛け、機動力の無さをご理解いただいて今だに道具ともども運んでいただいていたの上演です。ここ数年子育て支援の上演で気付くことは、特に幼い子ども達は一緒に観ている大人の表情や声などのフィルターを通して、作品への安心度を感じとっていることです。どんどん新しい作品を創ることはままなりません、自分にウソをつかない精一杯の舞台をできる限りと思っています。

今回は「おやこ教室 まめつちよ」
山本文蓉さんです。

スローグッズ探検隊

NPO団体が開発した人や自然にやさしい商品をご紹介します！

里山が好き女性の会

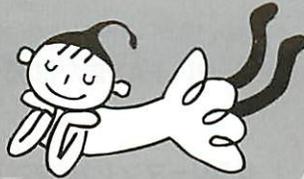


虎姫町にある虎御前山の麓で、地域の里山を守ろうと、女性9名が集まって活動するのが「里山が好き女性の会」。山麓の荒れた竹林を回復させようと、竹を間伐し、その竹を利用して手づくりの窯で竹炭、竹炭液をつくっています。竹炭には水や空気を浄化する働きがあり、米びつや電気ポットに入れたり、脱臭剤として下駄箱や車の中に置いておくとも効果があるということで、「ポット・炊飯用」「入浴用」「脱臭・除湿用」と用途に合わせたパッケージで購入できるのも便利。商品はホームページでのネット通販で購入できるようになっています。

【問】 里山が好き女性の会 横田光代さん
〒529-0103 東浅井郡虎姫町中野754-3
URL：<http://www.niomall.com/sh/takebo/>
TEL&FAX：0749-73-3522

がんばれ!NPO 応援団

市民活動を元気にする情報コーナー



おらみネット講座

心の通う情報誌づくり

市民活動の情報発信のためのアドバイス。
★ご意見、ご質問を受け付けています。

市民活動で大事なものは情報の発信です。また、活動が自己満足にならないために常に多くの人の意見を聞く耳を持つことも大事です。人の意見を聞くということは、まず、自分たちから情報を発信し、メッセージを述べていくことです。そのために、どのような情報発信がいいのかを情報発信の意味、手段、そして制作の手順について、今回から6回に分けてアドバイスします。

[VOL.1 伝える情報とは?]

■市民活動の情報発信ペーパーはミニコミ誌

多くの人に自分たちの主張や活動内容を知らせ、多くの参加を求める広報誌を作るにはどうしたらよいか。まず、皆さんの新聞は何のために誰に向けて発信するのか、ここではあえて「作る」という言葉ではなく、「**情報を発信する**」という表現にします。

(※これについてはVOL.3掲載予定)

市民活動の情報発信については様々な情報手段があり

ますが、この講座では、ペーパーでの情報発信についてのアドバイスをしていきます。まず、市民活動の皆さんが作られている新聞(ペーパー)は、どのようなジャンルに属しているかを他のさまざまなペーパーのジャンルをあげながら見ていきましょう。

大きくは皆さんが作られる新聞はコミュニティ誌というジャンルに属します。コミュニティ誌はその情報を伝える人が誰かによって「**タウン誌**」「**企業広報誌**」「**ミニコミ誌**」の3種類に分かれます。

コミュニティ誌の種類	内容	伝えるターゲット
タウン誌	自分たちの住んでいる町の情報。観光雑誌としても対応	県民・市民またはその街に興味のある人や観光客
企業広報誌	企業PR記事と自社が立地している周辺の情報などで紙面構成	企業がターゲットとする(地元の)人。例えば、女性、若い層、高齢者等
ミニコミ誌	NPO、サークル、自治会など、主に小さな単位で興味ある人たちが読む情報誌	NPOやサークル単位、または身内同士

上記表から、市民活動の情報発信ペーパーは「ミニコミ誌」というジャンルに属します。

■伝える情報は何かを再確認する

コミュニティ誌が伝える情報としては●生活情報●

めとてとコラボ

市民と行政、市民と企業などの、新しい市民協働(パートナーシップ)のカタチを紹介します。

「地域だれでも・どこでも博物館」を目指して “はしかけ”さんが、博物館と人・情報・地域をつなぐ

..... 県立琵琶湖博物館『はしかけ制度』



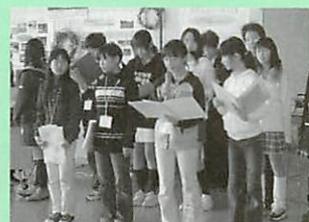
▲担当の桑原主任学芸員



中世のおんなたち
「糸を紡いで布を
織る展」
4/23~6/10
琵琶湖博物館



▲体験学習の日グループ
「レインスティックをつくろう」



▲「湖をつなぐ会」はしかけ活動
発表会にて

をスタートさせました。展示観覧や観察会など受け身的な博物館の利用だけでなく、自主的な活動を始める

琵琶湖博物館は「湖と人間の共存」を目指して1996年に開設。琵琶湖をとりまく環境や人々の価値観はこの20~30年間に様変わりし、琵琶湖博物館に対する社会的ニーズも変化してきました。

一歩先行く博物館像を目指し、地域の自然、歴史、暮らしの情報はフィールドにあり、地域こそが展示室であり、博物館である「地域だれでも・どこでも博物館」を構想。2000年に住民と博物館の協働を築く「はしかけ制度(※)」

※「はしかけ」という言葉は、湖北地方で人と人の縁を結ぶという意味。

環境を提供し、県内各地のフィールドと博物館、人と人、情報と情報をつなぐ「はしかけさん」として活躍してもらう制度です。参加型博物館の活動分野は「調査・研究」「資料収集・整理・活用」「展示」「交流」「情報発信」などさまざま。「誰かのためにというボランティアではありません。自分に役立つ、楽しいと思えることが重要なんです」(桑原さん談)。

博物館と「はしかけさん」はギブ・アンド・テイクの関係です。登録を行うと学芸員と共に博物館のバックヤード

7月・8月の掲示板 情報募集中!

日時・場所・問合せ先等を明記の上、6月8日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

平成16年度自然体験活動支援事業 「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」

- 応募と資格●本年度より、以下の2つの部門に分けて募集します。
- (A)学校部門 対象 小学校・中学校 (公立・私立は問いません)
- 参加生徒数が10人以上で、学校長の承認を受けたもの。(B)団体部門 対象 定款・規約等を整備し組織としての形態を有する団体
- 小中学生が10名以上参加する企画であること。
- 申請●申請者の主催事業であり、学校部門は学校長名義での申請とします。団体部門は定款・規約等の添付をお願いします。
- 活動内容●自然のなかでの体験活動であれば、内容は一切問いません。ユニークさと創造性にあふれ、高い効果が考えられるものとします。(事業例) 地域交流、環境教育、史跡探訪、自然探検、アウトドアスポーツなど目的が明確であり、青少年の健全育成に寄与するものであること。
- 開催期間●7月10日～10月31日の間に実施する事業。
- 応募締切●6月10日(木)(必着)
- 【問】(財)安藤スポーツ・食文化振興財団
- 担当:徳永、安藤、市川 住所:〒563-0041 大阪府池田市満寿美町8-25
- 「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」係
- TEL:072-752-4335 FAX:072-752-1288

フィリップ モリス ジャパン 市民活動～市民活動助成

- 助成内容●地域社会の課題を解決し、そこに住む人たちがいつまでも安心して生活を送れるようなコミュニティを実現するための活動で、以下のプロジェクトに助成します(二つの課題にまたがるプロジェクトも歓迎します)。
- ◎課題A(資源&志源) 地域の自然的・歴史的・文化的な資源や、人間的・社会的な志源を発掘・発見し、それら結びつけて活用することで、さまざまな活動の場をつくり出し、そこに住む人たちが生き生きと暮らし続けられるようなコミュニティをめざすプロジェクト。
- ◎課題B(サポーター・ハウジング=支援付き居住) 課題を抱えて生きる人たちがコミュニティの一員として生きていけるよう、居住の場(グループホームやシェルターなど)と、さまざまなサポート(生活支援や就労支援など)を一体的に提供するプロジェクト。
- DV被害者、ホームレス、障害者、高齢者の人々などの生活を一体的に支援するもの
- 応募期間●5月24日(月)まで(当日消印有効)
- ※ 消印が5月25日以降のものについては、受理いたしません。
- 応募先●特定非営利活動法人市民社会創造ファンド「PMJプログラム事務局」
- 住所:〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-6-1 古河ビル616号
- TEL:03-5220-2101 FAX:03-5220-2102
- 【問】フィリップ モリス ジャパン株式会社 広報部 担当:福原
- 住所:〒100-6190 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー22階
- TEL:03-3509-1519 / FAX:03-3506-7730

第16回地域福祉を支援する「わかば基金」募集開始

- 支援対象●地域で活発な福祉活動をすすめているグループを対象
- ※法人格を持っている(ただし、NPO法人は申請可)グループなどは対象になりません。締切●6月25日(金)必着
- ※詳しくは募集要項(5月中旬にできあがり)をご覧ください。
- 【問】社会福祉法人NHK厚生文化事業団
- 住所:〒150-0047 東京都渋谷区神山町4-14第三共同ビル
- TEL:03-3481-7855 FAX:03-3481-7674

サラリーマン(ウーマン) ボランティア活動助成

- 趣旨●サラリーマン(ウーマン)のボランティア活動を支援することによりサラリーマン(ウーマン)のボランティア活動の振興と社会福祉の向上に寄与することを目的とする。
- 応募資格●社会福祉の推進に役立つボランティア活動を行っているか、または行おうとするサラリーマン(ウーマン)の個人もしくはそのグループ。ただし、過去5年以内に本助成を受けた人(グループ)は除く。
- 対象となる活動●(1)高齢者福祉に関するボランティア活動(2)障害者福祉に関するボランティア活動(3)子ども(高校生まで)の健全な心を養うための交流ボランティア活動で、内容が先駆性、継続性、発展性があり、効果が予測できるもの。いずれも目的、計画等が明確な日本国内での無償の活動とする。
- 応募期間●5月31日(月)まで(締め切り日厳守)
- 応募先●(財)大同生命厚生事業団 事務局
- 住所:〒550-0002 大阪府西区江戸堀1丁目2番1号
- TEL:06-6447-7101 FAX:06-6447-7102

財団法人 淡海環境保全財団 平成16年度環境保全活動等に対する助成

- 内容●県内の貴重な自然地、野生動植物、自然景観等の保護および自然とのふれあい活動など、環境の保全のために活動している団体に対し、助成を実施します。
- 申請書受付期間●5月10日(月)～18日(火)9:30～16:00
- 申請書提出先●(財)淡海環境保全財団事務局 担当:片桐・田井中
- 住所:〒520-0807 大津市松本1丁目2番1号(大津合同庁舎6階)
- TEL:077-524-9434 FAX:077-524-7178

滋賀会館シネマホール 5月の上映予定

チケット
プレゼント

5月12日(水)～14日(金) 『ドッグヴィル』10:30/16:05 『半落ち』13:45/19:20	5月19日(水)～21日(金) 『美しい夏キリシマ』10:00/14:30 『イン・アメリカ』12:25/16:45 『白い巨塔』18:50
5月15日(土)～16日(日) 『白い巨塔』10:20/15:15 『イン・アメリカ』13:10 『ドッグヴィル』18:05	5月22日(土)～23日(日) 『白い巨塔』9:40 『美しい夏キリシマ』10:00/14:30 『砂の器』14:50 『イン・アメリカ』17:30

◆リクエスト受付中!

上映してほしい作品名と住所、氏名、電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで淡海ネットワークセンターまでお送り下さい。抽選で3組6名の方に、滋賀会館シネマホール映画鑑賞券をプレゼントいたします。

当日料金は、毎週水曜日¥1000均一!

ロードショー/一般¥1700/学生¥1400/シニア・小中高¥1000
スタンダード/一般¥1300/学生・シニア・小・中¥1000 共通前売り券¥1300(月毎の券です)いたします。

・各回入替制 ・上映時間・料金はお問い合わせ下さい。
TEL:077-522-6191 滋賀会館シネマホール

クローズアップ・情報BOX



食害を防いで、カモシカを守ろう!

かもしかの会関西では、若木を食べてしまうことから害獣として駆除されているカモシカを守ろうと、土山町の鈴鹿山系を舞台に、食害を防ぐための活動を行っています。参加できるボランティアを募集中! 山に入って汗

を流しながら、自然環境について考えてみませんか?

かもしかの会関西 土山・初夏の作業
5月14日(金)～16日(日)

内容●食害防除作業。

場所●甲賀郡土山町

参加費●5,000円

【問】かもしかの会関西

FAX:075-502-4255

URL: http://www.pure.ne.jp/~j-serow

e-mail: serow@pure.ne.jp



行って来て見て 情報BOX 5・6月

勉強会・交流会

NPO法人の地域活性化事業 コミュニティ・ビジネス大学院

▶ 5月22日(土)~7月17日(土)の6回
14:00~15:30

場所●NPO法人経営支援リエゾンオフィス 研修所
(守山市今市町12-1)
費用●1講座500円(定員30名・申込順)
※詳しくはお問い合わせください。
【問】NPO法人経営支援リエゾンオフィス
TEL:077-514-1855(火・水・金10~16時)
FAX:077-514-1866

登校拒否・不登校を考える京都と滋賀のつどい

▶ 5月22日(土) 12:20~

場所●キャンパスプラザ京都
内容●記念講演「心のサーモスタットがもし切れなかったら」
講師:明橋大二さん(真生会富山病院・心療内科医師)
交流会(講演のあと参加者同士の交流)
参加費●500円(資料代) ※託児あり
【問】登校拒否・不登校問題滋賀県連絡会
TEL&FAX:077-525-5364

滋賀県スポーツレクリエーション交流大会 「フリーピンポン」

▶ 5月29日(土) 13:00~

場所●近江八幡市ひまわり館
参加資格●滋賀県内在住・在勤者
4人1組(男女・混合は問いません)
参加費●一人500円(協会員は無料)
申込締め切り●5月3日(月) 必着
【問】フリーピンポン協会本部(辻本)
TEL:077-587-0247 FAX:077-587-1046

「ボランティア講座」を開きます

▶ 5月15日(土) 9:40~14:45

内容●障害を持つ子どもたちと実際に接していただき、その後、簡単な講座を持ちます。
持ち物等:動きやすい服装でお越しください。
場所●滋賀県立障害者福祉センター
参加費●無料
【問】大津市南部障害児学童 ボレボレ
昼間:戸田 TEL&FAX:077-549-3081
大橋 TEL&FAX:077-543-7261
夜間:西川 TEL&FAX:077-537-5782

第52回関西エスプラント大会

☆6月12日(土) 14:30~15:50

「世界の湖沼と琵琶湖」
(琵琶湖研究所長 中村正久氏)
☆6月13日(日) (1)9:00~12:00エスプラント入門講座 (2)14:00~15:30「共生のための愛のことば-エスプラント」(世界エスプラント協会副会長 LEE Chong-Yeong氏、通訳付) (3)15:30~16:00 コーラス
場所●立命館大学びわこくさつキャンパス内エポック立21
参加費●無料
【問】大会事務局
TEL:0748-33-7002(工藤壽士方)
URL:http://homepage3.nifty.com/numa/kek52/
e-mail:mh_kudo2002@ybb.ne.jp

「(仮) 淡海の杜の会」 設立総会&記念講演会

▶ 5月23日(日) 13:30~

場所●近江神宮内近江勤学館
内容●「(仮称)淡海の杜の会」設立総会
記念講演「鎮守の森をまもり創れ~近江から世界へ~」
講師●(財)国際生態学センター研究
究所長 宮脇昭氏
参加費●500円(資料代)
【問】下記へはがき、FAXまたはメールで
名前と連絡先を明確してお申し込みください。
※5月17日締め切り
住所:〒520-0803大津市電が丘6-12 森川校
FAX:06-6308-2563
e-mail:jdj04704@nifty.ne.jp

イベント

葛巻(かつらひろし)油彩画展~昇華の刻~

▶ 5月9日(日)~23日(日)
10:00~17:00(火曜日定休)

場所●ギャラリー楽座
内容●大阪に生まれ、スペインに留学。現在、
パリ在住。国際美術展に出品多数。フランス
の静物をモチーフにした作品約20点を展示。
【問】NPO法人ギャラリーシティ楽座
TEL:0749-65-0393

富田人形 春の公演

▶ 5月16日(日) 13:30~

場所●びわ町リユートホール
参加費●1,500円
主催●富田人形共遊団
【問】びわ町教育委員会 TEL:0749-72-4300

NPO法人「子どもの村を設立する会」 認証記念講演会

▶ 6月12日(土) 14:30~16:30

講師●新藤兼人氏(映画監督、文化勲章受章者)
演題●心のつながり~二羽信子と歩んだ人生~
場所●龍谷大学瀬田キャンパス4号館209教室
参加費●無料
【問】NPO法人「子どもの村を設立する会」
TEL&FAX:077-544-7209(担当:金子)

第4回桂文我のおやご寄席 子どもが楽しめる古典落語 「落語はおとなだけの楽しみやない!!」

▶ 6月20日(日) 15:00~

場所●大津市民文化会館
料金●小学生1,200円、おとな
2,000円、親子ペア券3,000円
【問】ころぼくの家 TEL&FAX:077-522-9849

大津管弦楽団第105回定期演奏会

▶ 6月6日(日) 14:00~

場所●大津市民会館大ホール
参加費●一般1,300円(前売1,000円)
高校生以下1,000円(前売700円)
【問】大津管弦楽団
TEL:077-533-4485(小濱)

「おやこバス旅行~きんと雲にのって 西遊記を見に行こう!」

▶ 7月10日(土)

内容●長浜からバスに乗り希望ヶ丘へ。
そこで工作教室など。野洲文化ホールでむ
すび座公演「西遊記~天空への道」を鑑賞。
場所●希望ヶ丘、野洲文化ホール
参加費●5,000円(チケット代込み) #会員1,000円
【問】:長浜おやこ劇場
TEL&FAX:0749-64-1527(月~金10時~13時)

おおつ21世紀塾 創塾10周年記念事業 この人と語る 話しあえる楽しい講演会

▶ 7月10日(土)

6月6日(日) 10:00~
内容●「癒しの道化師」私が目ざすもの
講師●石井裕子さん
(精神医療のケアリングクラン トンちゃん=座長)
場所●びわ湖大津館 桃山の間
※併催 塾生の作品展(絵画、写真、手工
芸品、陶芸、盆栽など)、10年の歩み展
【問】:おおつ21世紀塾
TEL:077-524-8282(赤澤)

「ラベンダーまつり」

▶ 6月12日(土) 13日(日) 19日
(土) 20日(日) いずれも10:
00~16:00(雨天決行)

内容●ラベンダーを主としたハーブ
畑の鑑賞、ハーブクラフト体験教室(
ハーブ石鹸またはラベンダーステ
ック作り)、ハーブクラフト&苗の展
示(苗を畑から掘りおこして即売可)
場所●長浜市宮司町みずらベンダー畑
参加資格●なし、お子さん連れも歓迎
参加費●鑑賞無料、ハーブクラフト
体験教室500円
※新規会員(年会費1000円)も募集中!
【問】みずらベンダー事務局
TEL:090-3840-7793

参加者募集

海外ボランティア参加募集inパキスタン

期日●A隊:7月9日(金)~7月30日(金)
B隊:7月23日(金)~8月9日(月) C隊:
8月2日(月)~8月23日(月) D隊:8
月9日(月)~9月6日(月)
開催地●パキスタン・イスラム共和国、
ノーザン・エリア北東部、バルチスタ
ン地方中心都市スカルド
事業概要●(1)植林:植林地成育調査、
苗木の増殖 (2)教育:小学校建設、(
スエスコ)と課外教育、女性の手芸指
導 (3)医療:巡回診療、保健衛生指導 (4)
生活用水の給水配管工事、飲料水確
保のための調査(専門家)
参加資格●一般
参加費用●23万円から33万円、K2
トレッキング(21日間)は44万円
【問合せ・申込先】NPO法人 ヒマラヤン・
グリーン・クラブ 事務所
住所:〒520-0851 大津市唐橋町
7-411レ・ユニオン保井201
TEL&FAX:077-534-0984
URL:http://www11.ocn.ne.jp/hgc/himalayan.html
e-mail:hgc@soleil.ocn.ne.jp

大津市南部障害児学童ボレボレ 保育ボランティア募集

障害のある子どもが、放課後に安心して遊べ
る場、友だちに一緒に遊べる場がほしい、豊
かな放課後に過ごしてほしいという願いから、
草津養護学校に通う小・中学生の知的及び
肢体の障害児のための学童保育を開所して
います。障害をもつ子どもたちと、ゆったり
じっくり、遊んでみたい、関わってみたいと思
われている方、子育てにそろそろ手が離れ
てきたお母さん、学生さん、是非お願ひします。
土日お休みのお父さんも大歓迎です。
開所日・時間●水曜日14:10~17:00
土(または日)曜日10:10~15:00
※登録していたいただき、年間を通じて
都合のつく日だけでもOKです。
主な活動場所●水曜日:草津養護学校
土(または日)曜日:県立障害者福祉
センターまたはノエルしごとの家(帝
産バス瀬田神領団地前)
【問】大津市南部障害児学童 ボレボレ
昼間:戸田 TEL&FAX:077-549-3081
大橋 TEL&FAX:077-543-7261
夜間:西川 TEL&FAX:077-537-5782

助成金情報

セブン-イレブン みどりの基金環境市民ボランティア活動助成制度

対象団体●日本国内において「環境」を主テーマとして活動している 下記のいずれかに当てはまる
団体 (1)「環境の保全を図る活動」を活動目的として認証されている特定非営利活動法人(NPO
法人) (2) 環境市民ボランティア団体(任意団体) ※行政、社団法人、財団法人、自治会、また観光
協会や商店会等の団体、またはこれらの団体が主導する活動については対象になりません。
活動分野●助成申請する「活動の目的」が下記のいずれかに当てはまる(複数可) (1) 自然環境保全 (2) 地域環境
美化 (3) 体験型環境学習 (4) 生態系保護 ※環境省が定める「レッドリスト-レッドデータブック」で絶滅危惧に分類
されている動植物の保護に関わる生態系保護活動に限る (5) 環境パートナーシップに基づくまちづくり・地域づくり
対象期間●第2期:各年9月1日~翌年2月末日までの半年間に実施される活動
応募締め切り●第2期:各年6月末日
【問】セブン-イレブンみどりの基金 環境市民ボランティア活動助成事務局
住所:〒105-0013 東京都港区浜松町1-27-9新浜松町ビル6階
TEL:03-5733-2526 FAX:03-3435-1065



2004年度年間スケジュール

淡海ネットワークセンターの新年度事業が決まりました。地域プロデューサー養成の「おうみ未来塾」やNPOを資金面から支える「おうみNPO活動基金助成事業」をはじめ、「おうみ市民活動屋台村」「わくわく市民活動ゼミナール」「おうみ市民活動交流会」などを行います。皆さんからの意見や提言をいただきながら、新しい展開を模索していきたいと考えています。今年度も淡海ネットワークセンターの取り組みにご注目ください。

NPO運営支援事業 支援希望NPOの募集

NPOの活動や基盤強化を図るとともに、地域における新たな雇用・就業機会の創出が図られるよう、県内の市民活動・NPOを支援している淡海ネットワークセンターが臨時的に職員を雇用し、選定したNPO（以下「支援NPO」という。）にその職員を出向させ活動を支援します。

◆ 一般、支援を希望するNPOを募集します。
◆ 応募締め切り：5月21日（金）必着
◆ ※応募に関する詳細はホームページをご覧ください。ただか、センターまでお問い合わせください。

淡海ネットワークセンターブック レットNo.21発行のお知らせ

「市民風車が創りだす地域社会の希望～地域資源を活かした市民参加型事業の可能性～」
NPO法人グリーンエネルギー青森
常務理事・事務局長 三上 亨さん
※5月初旬発行予定
☆センターブックレットは「わくわく市民活動ゼミナール」の講演記録をとりまとめたものです。

おうみ未来塾開講式

おうみ未来塾第6期生の開講式
6月6日（日）13：30～
場所：アヤハレークサイドホテル比叡の間
※詳しくはセンターまでお問い合わせください。

「しが協働モデル研究会」 第1回研究会開催のお知らせ

NPOと行政が対等なパートナーシップに基づく真の「協働」を推進するため、NPOと行政が同じテーブルにつき、現在実施されている取り組みを検証しながら、協働のルール、仕組み等について研究・検討を行うことを目的に「しが協働モデル研究会」が発足しました。
第1回研究会は下記日程で開催します。
6月30日（水）15：00～
滋賀県庁大津合同庁舎7C会議室
※詳細は決まり次第、センターホームページなどでお知らせします。

E-mailマガジン読者 “いつで～も募集”

センターでは、「おうみネット」やホームページなどを使って、市民活動に活用いただける情報を提供しています。よりタイムリーに、より読者の元へ情報をお届けできるよう、E-mailでの提供もあわせて行っています。センターのホームページに更新された新しい情報を中心に、月3～4回配信しています。

お届けする情報は、(1)センターの催しや募集、(2)活動団体の催し、(3)助成金の募集情報、(4)その他、企業・行政などのニュースです。くれぐれも、「えっ、講座の申し込み終わってたあ。」「ウッソ、助成金の募集があったの。」「ということのないように、情報は「鮮度の高いうちに」ご賞味ください。

ご希望の方は、件名に【メールマガジン希望】として、配信希望先のE-mailアドレスを記載のうえ、センターまで送信ください。センターは、ohmi-net@mx.biwa.ne.jp です。次号から配信します。(光)

編集後記

それまで障害児と関わったことがなかったという指導員の家永さんも、家庭では母。「元気玉」の子供たちやその保護者と接することで、親として学ぶことが多いといえます。障害のあるなしに関わらず、子供は愛すべき宝。障害児の学童保育の活動が定着することを祈るばかりです。
(編集ボランティア 松井)

NPO法人環境を考える会の取材で聞いた話。環境マップづくりのイベントで県立大学の上田洋平さんの「心象絵図」が感動的でした。それぞれの地元で、人生の先輩たちからの聞き取りを元にした屏風ができたらしいと思いました。
(編集ボランティア 幡)

週末子ども活動支援の「ルンルン」では、大人が仕切ることではなく、一緒に遊ぼうというスタイル。残った名札で出欠確認をするなど、子どもを主体においた視点に「さすが！」と感じました。地域に市民活動への理解がより一層深まり、学校でもNPOの受け入れが進むといえます。
(編集ボランティア 井上)

このたび、3月31日で淡海ネットワークセンターでの研修を終えて守山市役所へもどることになりました。市民活動の経験のない私にとって、この1年間はとまどいの連続でしたが、一方で多くの新たな発見もありました。以前から行政の役割とは何だろうと思っていたので、今回の研修で多くの方と出会い、少し異なる視点から行政について考えることができたと思っています。今年度から守山市でも市民交流センターにおいて市民活動の支援が始まり、担当することになりました。お近くへお越しの際はぜひお寄りいただき、今後も皆様からのご指導をお願いいたします。この1年間、お世話になり本当にありがとうございました。そして、これからもよろしく願います。(林)

守山市民交流センター
TEL：077-583-2975 FAX：077-583-4654

これからの地域づくりを考えた場合、ボランティアやNPOなど県民の皆様のご協力が大きな鍵を握るものと考えております。

淡海ネットワークセンターでは、こうした活動が様々な地域で沸き上がり、そして広がっていくことを願い、スタッフ一同精一杯応援させていただきます。どうかよろしく願います。
(事務局 山田)



7月号のアンケート

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで下記までご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。アンケート締切：7月末日

- Q1/環境保全のボランティアに参加したことがありますか？
a.よくある b.年に1～2度 c.やってみたいが機会がない d.関心がない
- Q2/家庭で環境のために気をつけていることは何ですか？
a.節水 b.ゴミの減量 c.省エネ d.買い物袋の持参 e.特になし f.その他
- Q3/子どもが環境に関心をもつために大事なことは？
a.親の姿勢 b.総合学習の充実 c.地域での取組み d.マスコミ e.その他
- Q4/どんな環境保全活動に参加したいですか？
a.琵琶湖清掃 b.ヨシ保全 c.森林保全 d.地球温暖化防止 e.その他
- Q5/これ以上環境を破壊しないためにはどうすればよいと思いますか？



淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

☎ 520-0801 大津市におの浜1-1-20
☎ TEL 077-524-8440 ☎ FAX 077-524-8442
☎ http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net
☎ E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



© 無断転載を固くお断りします。

